

## FD 研修会（部署間における学生データの連結から得られたデータの処理結果報告）報告

日 時：2022 年 7 月 19 日(火)14：30～15：00

講 師：ビジネス実務学科 藤元 宏一教授

場 所：H207 教室

題 名：部署間における学生データの連結から得られたデータの処理結果報告

参加者：教職員名（うち事務職員人含む）

(内容)

### 1.目的

現在、学生データは入試広報部、教務部、就職進学支援部で別々に管理されている。これらのデータを連結することで、どのようなデータ処理が可能となるか？さらに、自己点検・評価に利用できる指標を見出すことができないかを探るために、学生個人データの連結とデータ処理に取り組んだ結果を報告した。

### 2.データ連結処理

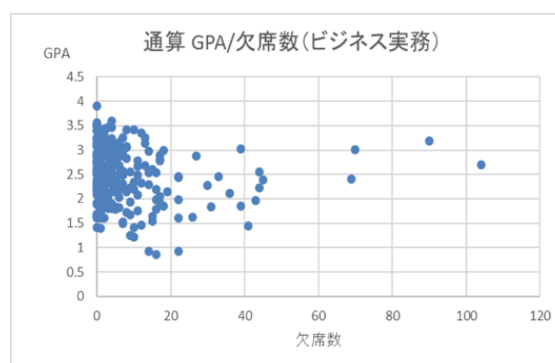
入手データは、入試広報部から入試データ（2020 年度から 2022 年度入学）、教務部からは成績データ（2020 年度から 2021 年度入学）、就職進学支援部からは進路データ（2020 年度入学）を得た。

得られたデータは全て Excel 形式であり、それをデータベース (Access) 形式に変換し、入学年度と氏名、氏名カナを利用してクエリー機能で連結を行った。結果(入学年度+受験番号)と学籍番号を連結することができ、3 部署学生個人データの一体化を行うことができた。さらに、入試総合点と満点から入試得点率を求め、様々な角度から処理を行った。

### 3.処理結果報告

#### 1) 高校時欠席数と通算 GPA（2020、2021 年度入学）

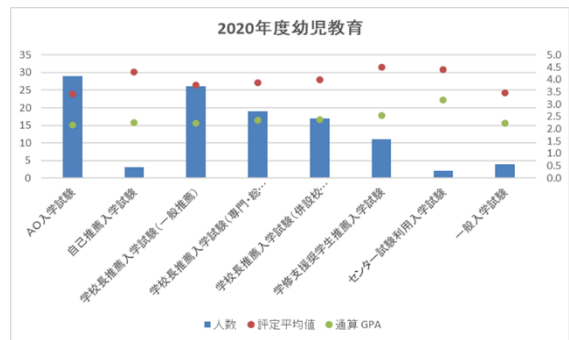
3 学科とも高校時の欠席数と通算 GPA には相関関係は認められず、高校時の欠席数は通算 GPA とほとんど関係ないことがわかった。ただし、ここには休学者や退学者データは含まれていないため、対象数は少ないが追加処理して調べる必要がある。



2) 学科別評定平均値と通算 GPA の平均値 入試種別 (2020 年度入学)

入試種別に学科別評定平均値と通算 GPA の平均値を算出しグラフ化した。

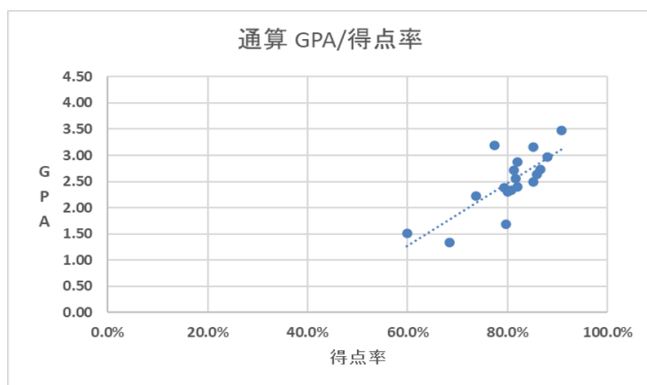
人数は少なくとも 10 名以上の場合が信頼性が高いと考えられる。3 学科とも AO 入試の入学者が、比較的評定平均値と通算 GPA 値の平均値が低くなっている。また、3 学科とも学習支援奨学生推薦入試の入学者が、比較的評定平均値と通算 GPA 値の平均値が高い。



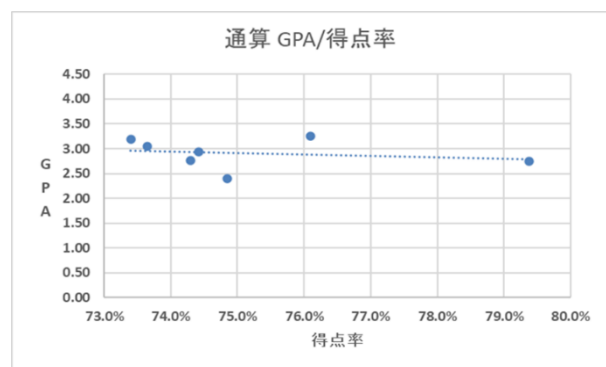
3) 学科別通算 GPA と入試時得点率 入試種別 (2020 年度入学)

「2020 年度美術学科」

○学校長推薦入学試験 (一般推薦)



○学修支援奨学生推薦入学試験

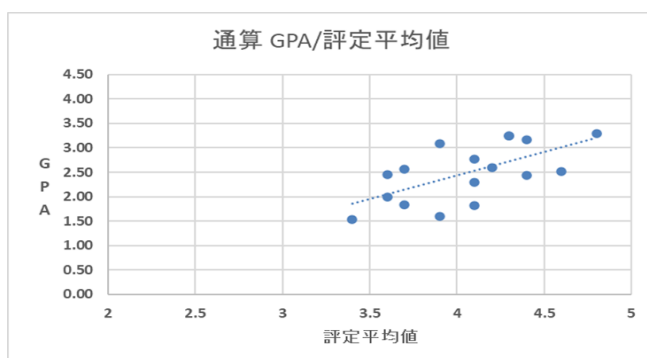


概ね正の相関関係が認められたが、一部の入試では認められない場合もあった。

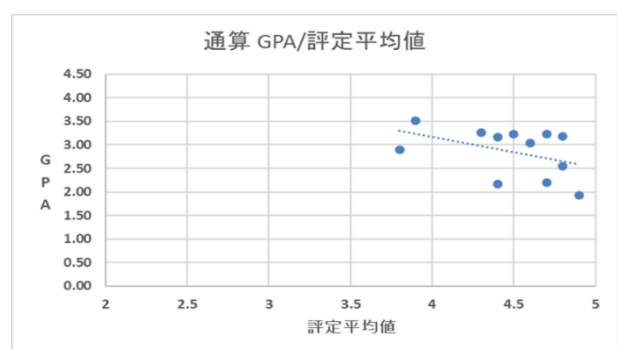
4) 学科別通算 GPA と評定平均値 入試種別 (2020 年度入学)

「2020 年度ビジネス実務学科」

○学校長推薦入学試験 (専門・総合学科)



○学修支援奨学生推薦入学試験



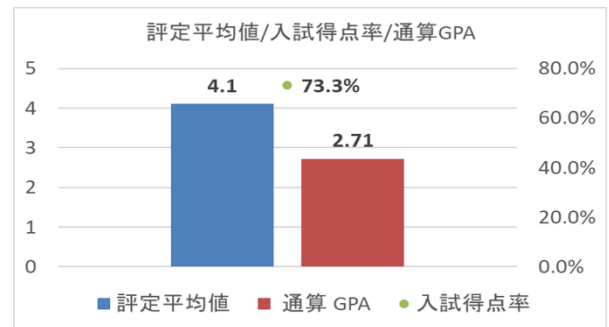
概ね正の相関関係が認められたが、一部の入試では明らかな負の相関関係が認められる場合もあった。

なお、1)～4)については、2021年度入学者についても同様な結果となった（2021年度は通算 GPA は1年次のみ）。

#### 5) 個人データの追跡

##### ○学校長推薦入学試験（一般推薦）

特に入試広報部と教学支援部の個人データを一体化したことで、右のような個人のデータ追跡が可能となる。今後処理方法を検討して、有用な処理データを得られるようにしていきたい。



#### 4.まとめ

現状では、教学支援部データに「入学年度」、「受験番号」を取り込んでおけば、3部署間の連結は容易に可能である。今後、「面接点数」、「授業欠席数」（今年度から取得）、「就職模試点数」などのデータ追加処理も検討していきたい。さらに対象者は少ないが、退学、休学者のデータ処理も行う必要がある。将来的には、3部署のデータを一元化できるシステムが導入されれば、より迅速に個人の入学から卒業までのデータ追跡とデータ処理が可能となる

質疑応答では、矢澤先生から入試時得点率には評定平均値も含まれているので、別にする必要があるのではないかと指摘があった。